

# 特集

## あつまれ

# どうしょくぶつの毒

一口に「毒」といってもさまざまですが、英語では“poison”, “toxin”, “venom”と分けて表現されます。poison は人工物を含む毒物全般を指し、toxin は動植物による自然毒、また venom は主に動物の毒腺から分泌される毒を指します。これに当てはめれば今号は、toxin (および venom) による中毒、すなわち「自然毒」に関する特集です。そして自然毒とは、動植物がもともとその体内に備えている、あるいは食物連鎖により体内に蓄積される有毒成分のことを指し、主にその動植物を食べることにより食中毒として発症します。興味深いことに、陸上の有毒動物をヒトが食べても、それで食中毒を起こすことはなく、自然毒で食中毒を起こす動物は、すべて魚介類由来とされます。

さて、このような「毒」の分類、そして「自然毒」の概念、個別の有毒動植物の知識をきちんと学んでいる救急医が、どの程度いるのでしょうか？

食中毒自体は common な疾患であり、その原因件数トップ3は、アニサキス、カンピロバクター、ノロウイルスとされます。これらの疾患を診たことがないという救急医は、いないでしょう。一方で、自然毒による中毒を診察する機会は救急の現場でも決して多くなく、本特集で取り上げるような中毒症例を一度も診たことがない、という読者も多いかと思われまます。しかし、自然毒による中毒は、その毒をもつ動植物と毒物に関する知識がなければ診断すらできず、さらに適切な治療が行われなければ致命的な経過をたどるようなケースも少なくありません。だからこそ今号の特集では、ある意味外因性の“希少疾患”特集として自然毒による中毒に焦点を絞り、その道のエキスパートの先生、あるいは実際に症例を経験された先生方からその知識を学び取り、万一のときの診察に役立つような内容を目指すこととしました。

前述のとおり、自然毒による中毒は“希少疾患”ともいえ、本特集を読んですぐに現場で役立つ、というわけではないかもしれませんが、しかし、数年後・数十年後に「アレ読んでおいてよかった！」という瞬間が訪れることを信じて、まずは興味本位からでも、目を通してみてください。